

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 173-0004

所在地 東京都板橋区板橋1-43-6 宝ビル3階

評価機関名 特定非営利活動法人ほいくオーアールジー

認証評価機関番号

機構 02 - 017

電話番号 03-5944-1196

代表者氏名 理事長 伊崎 守



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

| 評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号 | 評価者氏名 | | 担当分野 | 修了者番号 |
|--|--|-----------------|------|----------|
| | ① | 高橋 秀司 | 経営 | H0201056 |
| | ② | 永井 章子 | 福祉 | H1701004 |
| | ③ | 田川 伸子 | 福祉 | H1801022 |
| | ④ | | | |
| | ⑤ | | | |
| | ⑥ | | | |
| 福祉サービス種別 | 認可保育所 | | | |
| 評価対象事業所名称 | 今泉保育園 | | | |
| 事業所連絡先 | 〒 | 146-0093 | | |
| | 所在地 | 東京都大田区矢口2-26-17 | | |
| | TEL | 03-3758-0074 | | |
| 事業所代表者氏名 | 樋口 威道 | | | |
| 契約日 | 2025 年 6 月 4 日 | | | |
| 利用者調査票配付日(実施日) | 2025 年 7 月 14 日 | | | |
| 利用者調査結果報告日 | 2025 年 11 月 14 日 | | | |
| 自己評価の調査票配付日 | 2025 年 7 月 14 日 | | | |
| 自己評価結果報告日 | 2025 年 11 月 14 日 | | | |
| 訪問調査日 | 2025 年 11 月 21 日 | | | |
| 評価合議日 | 2026 年 2 月 6 日 | | | |
| コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入) | 職員を対象にWEBで説明動画を配信し、ポイントとなる項目等について解説した。職員分析シートは、評価項目単位だけでなく全ての標準項目について判断ができるよう回答欄を加工した。 利用者調査では、標準調査項目に独自項目を追加したアンケートと案内文、共通評価項目のねらいを返信用封筒に同封し、園職員を通じて保護者へ配布した。 調査票は、ポストへの直接投函と、園内に設置した箱で並行して回収し、弊社事業所にて集計を行った。 | | | |

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026 年 3 月 31 日

事業者代表者氏名

樋口 威道



| | |
|---|---|
| 1 | 理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） |
| | <p>事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)のうち、特に重要なもの(上位5つ程度)を簡潔に記述 (関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命尊重の保育と心の教育を推進 2. 児童保育法による乳幼児の保育 3. 仏教保育で「明るく・正しく・和よく(なかよく)」を乳幼児期の人として、園児の主体的な活動を促し、豊かな情操を養う心を育てる保育を行う 4. 地域と利用者のニーズを取り入れ保育を行う 5. リトミック・絵画教室を取り入れ創造力やリズム感と集団行動ができる人を育成する |
| 2 | 期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） |
| | <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもたちの両親・家族や子供たちから信頼される人を求めている。常に明るく、正しく、仲良く相手のことを常に認め、感謝の心を忘れない人材を求めている。</p> |
| | <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>命の大切さと生かされていることへの感謝を伝えられる人 子どもの気持ちをいつも考え、子どもに寄り添った心を持つ人 相手を思いやり子どもとともに考える気持ちを持つ人 正しい大人の姿を子どもたちに見せていける誠実な人材、いつも明るく、正しく、和よく子どもたちに伝えられる人</p> |

| | | | |
|---------------------|--|--|--|
| 調査対象 | 在園児73名(66世帯)の保護者(お子さんが複数通園されている場合は年齢の低いほうのお子さんについて回答を得る)。 | | |
| 調査方法 | アンケート方式を採用。標準調査項目に独自項目を追加したアンケートと案内文、共通評価項目のねらいを返信用封筒に同封し、園職員を通じて保護者へ配布。ポストへの直接投函と、園内に設置した箱で並行して回収を行い、弊社事業所にて集計を行った。 | | |
| 利用者総数 | 73 | | |
| 利用者家族総数(世帯) | 66 | | |
| 共通評価項目による調査対象者数 | 66 | | |
| 共通評価項目による調査の有効回答者数 | 35 | | |
| 利用者家族総数に対する回答者割合(%) | 53.0 | | |

利用者調査全体のコメント

利用する園児の保護者66名を対象にアンケート調査を実施し、35名から回答を得た。総合的な満足度は「大変満足」が51.4%、「満足」が42.9%で、合わせると94.3%の高い満足度が得られている。「興味や関心を持てる活動」、「食事への配慮」、追加項目「子どもの発達に合わせた豊かな感性を育む活動・遊び等が行われているか」、「心身の発達に役立つ活動」、「保育所との信頼関係」、「職員の接遇・態度」、「ケガや体調変化への対応」、「子どもを尊重した対応」等、多岐に渡る項目において9割台の非常に高い支持を集めている。アンケート全体の回答結果としては、平均で約82%の支持を集めている。自由記述では、保育内容や施設環境面について好意的なコメントが多く見られている。

利用者調査結果

| 共通評価項目 | 実数 | | | |
|---|----|---------------|-----|------------|
| | はい | どちらとも いえない | いいえ | 無回答 非該当 |
| 1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか | 33 | 2 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答が94.3%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が0%となった。9割台の非常に高い満足度を獲得した他、追加項目「子どもの発達に合わせた豊かな感性を育む活動等が行われているか」でも同様の支持を集めている。 | | | | |
| 2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか | 34 | 1 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答が97.1%、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が0%となった。9割を超える非常に高い支持を集めており、前項と併せて活動に対する理解は広く得られている。 | | | | |
| 3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか | 34 | 1 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答が97.1%、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が0%となった。食事については、満票に迫る非常に高い満足度を獲得している。 | | | | |

| | | | | |
|---|----|---|---|---|
| 4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか | 30 | 4 | 1 | 0 |
| 「はい」の回答が85.7%、「どちらともいえない」が11.4%、「いいえ」が2.9%となった。自然や社会との関わりについては、8割を超える高い支持を集める結果となっている。 | | | | |
| 5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか | 26 | 6 | 1 | 2 |
| 「はい」の回答が74.3%、「どちらともいえない」が17.1%、「いいえ」が2.9%となった。保育時間の変更については、7割台の支持が示されている。 | | | | |
| 6. 安全対策が十分取られていると思うか | 25 | 9 | 1 | 0 |
| 「はい」の回答が71.4%、「どちらともいえない」が25.7%で全体の「どちらともいえない」の割合の中で最も高く、「いいえ」が2.9%となった。7割台の支持が示されており、安全対策については保護者からの理解が概ね得られている。 | | | | |
| 7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か | 28 | 7 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答が80%、「どちらともいえない」が20%、「いいえ」が0%となった。行事日程の設定の項目では、8割の支持を集めている。 | | | | |
| 8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか | 33 | 1 | 1 | 0 |
| 「はい」の回答が94.3%、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が2.9%となった。9割を超える非常に高い支持を獲得している。 | | | | |
| 9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか | 26 | 8 | 1 | 0 |
| 「はい」の回答が74.3%、「どちらともいえない」が22.9%、「いいえ」が2.9%となった。7割台の支持が示されている。追加項目「子どもが生活するところは落ち着いて過ごせる雰囲気か」では、9割台の非常に高い満足度を獲得している。 | | | | |
| 10. 職員の接遇・態度は適切か | 33 | 1 | 1 | 0 |
| 「はい」の回答が94.3%、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が2.9%となった。職員の接遇については、9割台の非常に高い支持を集めた結果となった。 | | | | |

| | | | | |
|--|----|---|---|----|
| 11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか | 32 | 3 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答が91.4%、「どちらともいえない」が8.6%、「いいえ」が0%となった。9割台の非常に高い支持を集めており、病気やけがへの対応については保護者からの信頼を広く集めている。 | | | | |
| 12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか | 20 | 7 | 1 | 7 |
| 「はい」の回答が57.1%、「どちらともいえない」が20%、「いいえ」が2.9%となった。子ども同士のトラブルへの対応の項目では、5割台の支持となった。 | | | | |
| 13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか | 32 | 3 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答が91.4%、「どちらともいえない」が8.6%、「いいえ」が0%となった。子どもへの対応については、9割台の非常に高い支持を集める結果となった。 | | | | |
| 14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか | 28 | 4 | 0 | 3 |
| 「はい」の回答が80%、「どちらともいえない」が11.4%、「いいえ」が0%となった。プライバシー保護については、「無回答・非該当」を除くと高い支持が示されている。 | | | | |
| 15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか | 30 | 4 | 1 | 0 |
| 「はい」の回答が85.7%、「どちらともいえない」が11.4%、「いいえ」が2.9%となった。8割台の高い支持が得られた他、追加項目「園の基本的な考え方(理念・方針)についての説明はあるか」、追加項目「園からのたよりやその他の方法で、日々の子どもの様子や気持ちを知ることができるか」においては、9割台の非常に高い満足度を集めている。 | | | | |
| 16. 利用者の不満や要望は対応されているか | 28 | 2 | 0 | 5 |
| 「はい」の回答が80%、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が0%となった。要望や不満への対応については、8割の高い支持を集める結果となった。 | | | | |
| 17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか | 17 | 6 | 2 | 10 |
| 「はい」の回答が48.6%、「どちらともいえない」が17.1%、「いいえ」が5.7%で全体の「いいえ」の割合の中で最も高くなった。外部の苦情窓口の存在は約5割の認識となった。 | | | | |

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

| No. | 共通評価項目 | |
|-----|--|--|
| | カテゴリー1 | |
| 1 | リーダーシップと意思決定 | |
| | サブカテゴリー1(1-1) | |
| | 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている | サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 7/7 |
| | 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇) | |
| | 評価 | 標準項目 |
| | ●あり ○なし | 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当 |
| | 評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇) | |
| | 評価 | 標準項目 |
| | ●あり ○なし | 1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当 |
| | 評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇) | |
| | 評価 | 標準項目 |
| | ●あり ○なし | 1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当 |
| | ●あり ○なし | 3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当 |
| | カテゴリー1の講評 | |
| | <p>仏教保育の理念を最上位に掲げ、カリキュラムを通して理解を深めている</p> <p>園は戦後の復興期に、寺院の一部を使って地域のために保育を始め、区や社会の要請に合わせて拡大し現在に至っている。基本方針・保育目標は、「明るく 正しく 和(なか)よく」の仏教保育の理念を最上位概念に掲げ、地域に根ざした保育活動を行っている。保育理念は、入職時研修で職員に伝える他、仏教保育の機関紙、掲示物及び毎月の徳目(保育目標)についての学び等で周知している。指導計画は仏教保育カリキュラムと保育所保育指針に基づいて作成しており、職員はカリキュラムの作成過程で園の理念・方針への理解を深めることとなっている。</p> <p>保育理念を日常の保育活動に反映させ、保護者や職員に伝えている</p> <p>園長は住職としての務めと並行して、仏教保育の理念を深め日々の保育に反映させる等、園経営の中核を担っている。保育指導面では主任が、事務やICT化等はアドバイザーが支えている。園長は毎月の職員会議に出席し、その時の課題に関して方針を示す他、成道会(おゆうぎ会)、花まつり、涅槃会等、仏教に関連した行事等を通して職員・子ども・保護者に向け、仏教保育の保育観を伝えている。別法人の系列園が区内に1ヶ所あるため、幹部職員それぞれの役割や変更等、園全体に関わる課題については園長が全職員に周知している。</p> <p>監督者層の職員にマネジメント力を育て、ボトムアップの仕組みをつくっている</p> <p>園の会議体は毎月の職員会議、乳児会議・幼児会議、主任・副主任会議が主となっている。他に、系列園と合同で、双方の主任以上の会議が行われている。園長は全体職員会議に出るが、保育活動は主任・副主任会議に任せている。ここからの報告や提案を受け方向性を指示しながら、ボトムアップによって園運営を進めている。園長不在でも、監督者である層が組織として動くことを重視し、マネジメント能力を育てている。日常的な決定事項は園長が主任と協議して決め、法人として定める案件は系列園と協調しながら園長が意思決定を行っている。</p> | |

| カテゴリ-2 | | |
|--|---|----------------------|
| 2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 | | |
| サブカテゴリ-1(2-1) | | |
| 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6 |
| 評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している | | 評点(000000) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 5. 事業所の経営状況を把握・検討している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している | ○非該当 |
| サブカテゴリ-2(2-2) | | |
| 実践的な計画策定に取り組んでいる | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5 |
| 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している | | 評点(000) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている | ○非該当 |
| 評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる | | 評点(00) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる | ○非該当 |

カテゴリー2の講評

保育現場の職員の意見が通りやすい組織となっている

園のある地域は町工場や商店等の中小の事業所が多く、親子孫の三代が園を利用する家族もいるほど、長年地域に親しまれている園である。保護者のニーズは毎日の登降園時の聴き取りや個人面談、保護者会、給食試食会や園行事の際に出た意見等から把握している。職員の意向は、定期的な会議の場や園長面談等によって把握している。園は経営母体となっている寺院と一体的に、仏教保育に精通した園長・主任職を育成してきた。昨年度から保育・幼児教育専門の職員を主任に昇格させ、現場の意見が主任を通してより伝わりやすい組織となっている。

地域の保育事情等の必要な情報は、園長が収集して職員に周知している

区園長会、私立園長会等の会議には園長、または事務アドバイザーが参加し、地域の保育を取り巻く情報を収集している。私立保育園連合会主催の園長会では、共同研修の企画・実施によって職員同士の交流も行っている。また、私立保育園連合会では東社協保育部会からの情報を共有し、BCPや助成金、法改正の情報等、園経営の課題や取り組みについて意見交換を行っている。この他、民間保育園協会・日本仏教保育協会等にも加入しており、得られた情報は必要に応じて園長から職員会議で報告したり、資料を回覧することで職員に周知している。

中長期計画に連動した各年次事業計画を作成し、指導計画につなげている

各年次の事業計画は、毎年1月頃から園長・主任を中心に検討し策定している。保育理念や方針が大きく変わることはないが、職員配置や職務分担、健康管理計画、研修計画、年間事業の予定等を記載している。この中に中長期計画も記載されており、災害対応や保育環境整備等の施設整備を中心とした計画となっている。同時期に、全体的な計画を始めた保育指導計画が立案される。主任は両方の計画作成に関与し、両者の関連性も意識している。児童計画は毎月振り返り、必要事項を修正している。事業計画も年間の検証を経て、事業報告にまとめられる。

| 3 経営における社会的責任 | | |
|---|---|-----------------------|
| サブカテゴリ1(3-1) | | |
| 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる | | サブカテゴリ 毎の標準項目実施状況 2/2 |
| 評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇) | | |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。 | ○非該当 |
| サブカテゴリ2(3-2) | | |
| 利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4 |
| 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇) | | |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある | ○非該当 |
| 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇) | | |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている | ○非該当 |
| サブカテゴリ3(3-3) | | |
| 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5 |
| 評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇) | | |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している | ○非該当 |
| 評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇) | | |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる | ○非該当 |

カテゴリー3の講評

社会規範や職業倫理については、入職時に説明を行っている

入職時には就業規則や研修資料、仏教保育の理念等について説明し、社会人として、保育に関わる者としての基本的な社会規範を説明している。新規採用時には就業規則の服務心得の項を確認する他、新人職員マニュアル、接遇マナーマニュアル、児童の権利擁護について等の資料に基づいて研修を実施している。離職が少なく常勤の新規採用職員もほとんどいないため、職業倫理について学び直す機会も減っていると経営層は感じており、人権や権利擁護については、区からの資料をもとに改めて職員に周知することとしている。

児童虐待につながる行為がないよう、発見と予防に努めている

児童虐待につながるような行為がないように、事実の把握に努めている。虐待防止対応マニュアルは2020年に見直しを行い、関係機関等の連絡先等を修正している。また、保護者には虐待の発見と通告までの手順や、不適切保育に関する自治体相談窓口について、入園のしおりで周知している。虐待の疑い等で見守りが必要な場合が生じた際は、児童相談所や区の子ども家庭支援センター等と連携している。職員による不適切保育の防止については今後強化したい課題と捉え、区からの指導助言やチェックシートを利用して、職員への周知に向け準備を行っている。

地域の未就園児と家族に向けた行事への招待等、地域貢献活動を行っている

区内私立園長会や仏教保育団体の相互ネットワークがあり、日常的な交流連携を行っている。地域の草分け的保育園であることから、町会や母体寺院の檀家を通して園の取り組みに理解があり、行事等に参加してきたが、コロナ禍以降地域行事も縮小傾向にあり、交流の機会も減りつつある。また、地域の未就園児と保護者に向けてふれあい動物園に招待する他、園の主要な行事である地蔵まつりにも参加を促し、交流と地域貢献の機会をつくっている。一時保育等の地域ニーズに合った事業展開は、検討課題となっている。

| カテゴリ-4 | | |
|--|--|----------------------|
| 4 | リスクマネジメント | |
| サブカテゴリ-1(4-1) | | |
| リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5 |
| 評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる | | 評点(00000) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる | ○非該当 |
| サブカテゴリ-2(4-2) | | |
| 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4 |
| 評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている | | 評点(0000) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している | ○非該当 |
| カテゴリ-4の講評 | | |
| <p>保育中の事故を始めとした様々な経営リスクを把握し、対策を講じている</p> <p>保育中の事故を防止するため、危機管理マニュアルや安全計画を作成し、職員に周知している。誤食等の事故がないように、ヒヤリハットや事故記録等は速やかに職員会議で共有し、再発防止を喚起している。園長は経営的リスクとして、人材確保も課題と認識している。現状では園児定数の削減を行ったため、既存の人材で安定した保育活動を行うことができている。今後は産休・育休の拡大、短時間勤務等の柔軟な働き方の導入により、職員配置の見直しや一時的な非常勤職員等の採用、復帰の支援等の検討が必要であると考えている。</p> <p>事業継続計画や感染症マニュアル等は、職員がより理解できるよう見直しの時期にある</p> <p>巨大地震や水害等の大規模災害、感染症の拡大等に対応して、事業継続計画(BCP)及び感染症マニュアルを整備している。BCPは書面の他、PCでいつでもだれでも内容確認ができるようになっており、2019年作成となっており、指示系統等の内容の見直し及び職員への周知が課題となっている。実効性の高いものとするため、職員参加による改訂も求められる。また、大規模災害時にはPCが使用できないことを想定し、日頃から書面によるBCPの内容確認や防災訓練との連動等、わかりやすく可視化しておくことが求められる。</p> <p>個人情報保護規程に基づき適正管理を行っているが、規程は改訂の時期となっている</p> <p>園では個人情報管理規程、個人情報管理マニュアル等の規程を整備し、これに基づいて対応することとしている。これらの規程は2014年に作成されているため、要配慮情報やデータ管理等、法改正による改訂が行われておらず見直しが必要とされている。個人情報に関する書類は施錠できるキャビネット等で管理し、PCについては登降園や記録・計画について保育業務支援システムを導入しているため、アクセス制限等によりセキュリティーを強化している。職員からは、情報の適切な運用に関する誓約書を取ることにしている。</p> | | |

| 5 職員と組織の能力向上 | | |
|--|--|---------------------------|
| サブカテゴリ1(5-1) | | |
| 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 | 12/12 |
| 評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇) | | |
| 評価 | 標準項目 | |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる | <input type="radio"/> 非該当 |
| 評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇) | | |
| 評価 | 標準項目 | |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している | <input type="radio"/> 非該当 |
| 評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇) | | |
| 評価 | 標準項目 | |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている | <input type="radio"/> 非該当 |
| 評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇) | | |
| 評価 | 標準項目 | |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている | <input type="radio"/> 非該当 |

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|--|------|
| ◎あり ○なし | 1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している | ○非該当 |
| ◎あり ○なし | 2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている | ○非該当 |
| ◎あり ○なし | 3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる | ○非該当 |

カテゴリ-5の講評

離職が少なく年齢層のバランスも良い安定した組織となっている

常勤職員の平均勤続年数は約10年で、離職が少なく定着率の良い安定した運営が続いている。子どもの定数削減があったものの、現員で職員配置基準以上が確保されており、この数年新規採用は行っていない。年齢層は20代から60代、男性保育士もいるバランスの良い構成となっている。産休・育休の制度が充実しており、その半面非常勤や派遣職員等、代替職員の確保が難しくなっている。非常勤職員は元派遣職員や地域からの採用、保護者からの情報等で確保しているが、園の保育の特長や雰囲気を理解した人材の安定した確保のための対策を検討している。

モチベーションを高め、人材育成につなげるため園長面談を行っている

職員は年2回、自己評価表に基づき園長との育成面談を行っている。自己評価表には職務上の役割、年度目標、達成度、研修計画等を記載し、面談後に園長が目標に対しての達成度評価を行っている。昇給等につながる考課ではなく、モチベーションを高め人材を育成するための評価となっている。昇給は給与表、給与規程等による処遇改善の明確化、人材育成と研修の計画的実施が行われている。面談には系列園の園長が立ち合うこともあり、2園で共有できる人材育成システムとなっている。キャリアプランについては、わかりやすい説明が必要となっている。

長く働き続けることのできる職場環境が整っている

土曜出勤が少なく、実質的週休二日制でワークライフバランスに配慮した勤務体制となっている。子育て中の職員も毎年おり、長く働き続けることのできる職場環境が整っている。良好な人間関係を築くため、園長は個別に職員のヒアリングを行う等、中規模組織に合った人事管理を行っている。その半面で、新規採用が少ない中では新しい発想が生まれにくく、会議の発言者が決まってしまうという弊害もあるとしている。職員自己評価の中では、系列園との職員同士の交流を求める意見や、新規事業に取り組むことで意欲が高まるという意見も見られている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

仏教保育に基づく理念を理解しながら、現状に即した経営力の強化を課題とした。
乳児期における保育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培うと考えられている。園は子どもの生きる力を育成する保育の実現のため、「生命尊重」「正しきを見て絶えず進む保育」「良き社会人をつくる保育」を理念に掲げている。1～5歳までの保育の連続性をベースとしているが、待機児解消や少子化傾向により、各園とも定員割れが続いている。園は令和6年度の5歳児定員20人を、次年度に15人に変更するため区と協議を続けてきた。担任2名のうち1名をフリーにして、柔軟にサポートできるようベテランを配置した。令和4年には1歳児定員を10人から15人に増やしていたため、令和7年度には全クラス15人定員として新規園児募集を効率化した。職員の解雇等はせず、令和7年度は幼児クラスにやや余裕を持たせた職員配置とし、産休・育休者がいても対応できるようになった。また1・2歳児クラスは保育室の仕切りを排し、棚で区切りをつけることとして1歳児の増員に対応している。
定員割れは委託料収入の減少につながり、健全な運営の障がいとなる。現状では保護者の理解も得られ、安定した運営を継続している。

目標の設定と取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

保育定員や利用定員は、各自治体が実情及び保育需要推計によって定めており、当該区は定員の弾力運用を行わずに定員変更で対応する方針となっている。そのため園では、新規入園の1歳児の定員を増やし、卒園のタイミングで5歳児クラスの数員を縮小することとした。1歳児クラスは隣の2歳児クラスとの境界をなくすことで人数調整ができるようにし、カリキュラムには影響のない変更とした。
4・5歳児の複数担任にフリー担当を入れることや、1・2歳児の担任同士がサポートしやすい環境とすることで、職員の理解も得られている。定員変更と職員配置のバランスが整い、職員自己評価の個別意見にも、定員変更に伴う改善を感じる意見が複数出ており、職員にも良い影響を与えている。保育内容も環境に応じて変化していくと経営層は考えており、保護者の変化や保育親の変化に伴って、園も変わらざるを得ないとしている。今年度は職員に余裕が生じたため、とうきょうすくわくプログラムにも参加しており、保育の質の向上が期待される。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

経営層の異動に対応し、保育現場の活動や意見が経営層により伝わりやすくするため、会議の改善を図ることを課題とした。園は仏教保育を本旨とし、母体である寺院と深く関わり合いながら運営を行っている。長年園長・主任は寺院関係者、家族で地域ぐるみの仏教保育を行ってきた。この数年で園長・主任が異動や勇退することとなったため、園長には現任職が就任し、主任・副主任を保育職員から選定することとした。令和6年度は、前年度から就任している主任に加え副主任2名が揃い、園長のもとでマネジメント業務を執ることとなった。長年保育士として共に働く仲間からの人選であったこともあり、主任・副主任は当初は負担感もあったと考えられている。より良いコミュニケーションを取れるよう、令和6年度当初から乳児会議・幼児会議を設置した。更に主任・副主任会議を設置して園長も加わり、保育内容や園運営の課題等を検討して方向性を出す会議とした。こうした組織体制を変えることにより、各クラスに対しての情報伝達が行き渡るようになり、クラス毎の現状や課題も共有化できることとなった。また、主任・副主任が仲立ちとなり、保育現場の意見や要望も届くこととなった。

| | |
|-------------------|--|
| <p>目標の設定と取り組み</p> | <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった |
| <p>取り組みの検証</p> | <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である |
| <p>検証結果の反映</p> | <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である |

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

長年家族的な経営で、仏教保育という特徴的な活動を続けてきた園であるが、世代交代によって組織の再編を行うこととなった。令和6年度まで23年をかけて主任・副主任の人材育成と選定を行い、園長交代も合わせて新体制をつくってきた。トップダウンで進める運営は安定感はあるが、その反面、保育職員一人ひとりの声が上がりにくい傾向もある。園は徐々にボトムアップの仕組みをつくと共に、話し合いのしやすい風通しの良い組織に育ててきた。副主任の他に幼児リーダー・乳児リーダー・総括リーダーを置き、主任・副主任を支えるリーダー会議も設置した。主任・副主任が中心になり、言うべきことはお互い話し合おうという職員間のつながりも強くなったと感じている。今までも会議体はあったものの、トップから言われたことをこなす組織から、自分たちで考えて答えを出そうという実態へと変化していったと評価している。仏教保育に加え、今後改訂が予定されている保育所保育指針等、新たな保育観・子ども観を取り入れた保育活動が展開されることが期待される。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

| No. | 共通評価項目 | | |
|--|---|-------------------|---------------------------|
| サブカテゴリー1 | | | |
| 1 | サービス情報の提供 | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 | 4/4 |
| 評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している | | 評点(〇〇〇〇) | |
| 評価 | 標準項目 | | |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している | | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている | | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している | | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している | | <input type="radio"/> 非該当 |
| サブカテゴリー1の講評 | | | |
| <p>園の情報は、園や行政のWEBサイトから広く提供している</p> <p>園のWEBサイトには沿革や概要、園目標、職員構成、年間行事等を掲載している。「保育について」のページでは、1・2歳児と3～5歳児の一日の流れと共に、園の基本的ルールや持ち物、園舎の見取り図等を掲載しており、入園希望者の参考となる内容となっている。行政のサイトにも園の概要を載せており、「いろいろな行事」として特色としている行事も紹介している。保育の取り組みとして、絵画では描くことを楽しみながら想像力を育てていること、リトミックでは音楽を楽しみながら自己の表現力を養えるようにしていること等も伝えている。</p> <p>入園希望者の問い合わせや地域の子育て支援の情報を、随時案内している</p> <p>園のWEBサイトの問い合わせフォームでは、見学や子育て支援の情報、育児相談等を利用希望者が確認できるようにしており、電話での問い合わせも可能としている。行政のサイトの区内保育園一覧からも園のサイトにアクセスできる他、園の空き情報も取得できるようになっている。利用希望者が来園した際には、入園のしおりの縮小版を配布して入園を案内する他、パートナー登録についても説明している。登録者には、お地蔵祭りやふれあい動物園等の行事の際に、案内の手紙を送付して参加を募っている。</p> <p>入園希望者には、見学日を設けて園の様子を丁寧に伝えている</p> <p>入園希望者には、園見学の日程を年間で10日ほど設けており、複数人での見学者に対応している。日程が合わない場合には、柔軟に調整の上で個別での見学を実施している。対応は主に主任が行い、見学者に園のしおりの縮小版を配布して説明する他、各クラスの保育の様子や施設の見学を案内している。見学者へ説明する際には、仏教保育を要にした保育目標と共に、年間行事の花祭り、お施餓鬼、お地蔵祭り、成道会、涅槃会といった仏教行事があることや、お堂へのお参りを行っていることも伝え、入園前に理解が得られるようにしている。</p> | | | |

サブカテゴリ-2

2 サービスの開始・終了時の対応

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 6/6

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(〇〇〇)

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|--|------|
| ●あり ○なし | 1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している | ○非該当 |

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点(〇〇〇)

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|--|------|
| ●あり ○なし | 1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている | ○非該当 |

サブカテゴリ-2の講評

入園前の説明会では、重要事項を説明して書面で同意を確認している

入園前に説明会を実施し、主任が園のしおり(重要事項説明書)に沿って、基本的なルールや重要事項について説明している。健康管理については、発熱や下痢等の主な症状がある場合の登園の目安等を、保護者に詳しく示している。また、早寝早起きの習慣や身の回りのできることは自分で行うこと、薄着の習慣等、園生活を始める子どもたちが基本的な生活習慣を身につけていくため、家庭でも大切にしていこと等も伝えている。説明後は保護者からの質問に応じ、重要事項確認同意書によって同意を確認している。

入園前の面接では、子どもの保育に必要な情報を保護者に確認して記録している

入園前には保護者との個別面接を実施し、保育に必要な情報を確認している。保護者には、児童調査票、緊急連絡票、健康状況票、食物摂取状況表等、子どもの生活面や発達、遊びの状況等が確認できるアンケートを配布しており、入園内定後の面接時に持参してもらっている。面接は主に園長・主任が行い、保護者が記入した各種書類をもとに、子どもの保育に必要な状況を確認している。アンケートには保護者の意向を記載する欄があるため、口頭でも確認して記録を取っている。その他、入園の際の不安なこと等の相談にも応じている。

入園当初は慣れ保育を実施して、安心して園生活が始められるよう配慮している

入園前の面接では、入園当初に慣れ保育を実施することを保護者に説明し、就労状況や子どもの状態に応じた日程の目安を伝えている。入園後は子どもの状態に応じて日程の変更があることも伝え、子どもが無理なく園生活に慣れていけるよう対応している。1歳児15名が新入児で入園するため、室内や園庭等の子どもが落ち着いて過ごすことができる場所での保育や、好きな玩具を用意する等の環境面でも配慮している。保育者は、子どもの甘えたい気持ちを受け止めてスキンシップを図る等、安心して過ごせるよう配慮している。

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

13/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|--|------|
| ●あり ○なし | 1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている | ○非該当 |

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|--|------|
| ●あり ○なし | 1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている | ○非該当 |

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(〇〇)

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|---|------|
| ●あり ○なし | 1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している | ○非該当 |

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|---|------|
| ●あり ○なし | 1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている | ○非該当 |

サブカテゴリ-3の講評

全体的な計画に基づき、子どもの状況に応じて各指導計画を作成している

仏教保育を要にした園の理念や方針、目標に基づいて主任を中心に全体的な計画を策定しており、これを踏まえて各クラスで年間指導計画を作成している。養護と教育の各領域を考慮した計画を立て、4期毎に評価と反省を行い子どもの状況を確認している。月間指導計画や実践的な内容の週案も作成し、「わらい」「環境構成・配慮」を記している。1・2歳児は個別月間指導計画も立て、一人ひとりに応じた生活や遊びに丁寧な配慮しながら日々の保育につなげている。各クラスの指導計画の振り返りでは、発達の連続性を持って作成しているかを確認している。

個別の記録や計画をもとに、一人ひとりの子どもの発達過程を把握している

一人ひとりに関する記録として、発達記録で発達の主な表れの記載事項をチェックする他、「発達上参考となる事項」の欄には、1歳から3歳までは3ヶ月毎に、4歳から就学前までは4ヶ月毎に記録を取ることで、各自の成長発達を把握できるようにしている。1・2歳児の個人月案は、「わらい」や「配慮」に対する評価から、計画に対してどのように推移しているのか等も把握できる内容となっている。1・2歳児の連絡帳では、家庭や園での子どもの姿を含めた状況を確認するため、お互いに細やかにやり取りして日々の保育の援助や配慮につなげている。

共通の思いで保育ができるように、職員間で子どもや保護者に関する情報を共有している

乳児会議・幼児会議を定期的開催して、子どもや保護者に関する情報を共有する他、毎月の全体会議では毎月の子どもの様子や翌月に向けて取り組む保育内容を共有している。各会議では保育内容や行事の課題点を、職員間で意見を出し合って検討し、同じ思いで保育に取り組めるようにしている。保護者からの意見についても会議の議題に挙げ、職員間で対応について検討する等、職員間で同じ方向性を持って保護者と向き合えるようにしている。乳児会議と幼児会議の内容は報告し合い、各会議で課題となっていることも意見交換している。

サブカテゴリ-5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

子どものプライバシー保護を徹底している

評点(〇〇)

評価

標準項目

◎あり ○なし

1. 子どもに関する情報(事項)を外部和り取りする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている

○非該当

◎あり ○なし

2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている

○非該当

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点(〇〇〇)

評価

標準項目

◎あり ○なし

1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している

○非該当

◎あり ○なし

2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている

○非該当

◎あり ○なし

3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている

○非該当

サブカテゴリ-5の講評

子どものプライバシーを守り、羞恥心に配慮した保育を行っている

子どもに関する個人情報については、入園時に「個人情報の取得に関する同意書」をもとに保護者に使用目的を伝え、同意を得た上で全職員で適切な管理・利用を行っている。子どもの羞恥心に配慮した保育としては、4・5歳児の男女で着替えをする際に衝立を設ける他、水遊びで水着に着替える際にはラップタオルを使用している。日常の着替えでは、上を脱いだら上を着て、下を脱いだら下を着ていく順番を子どもに伝え、身につくようにしている。プールは2階テラスに設置して、目隠しや日除けをして周囲からの視線を遮っている。

子どもの思いや声を受け止め、一人ひとりを尊重した保育を行うよう努めている

園の目標として「明るく、正しく、和(なか)よく」を掲げ、子どもを尊重した主体的な活動を促すと共に、豊かな情操を養うために心を育てる保育を行っている。会議では子どもへの言葉がけや関わり方、声の大きさ等、子どもを尊重した対応を確認する機会を設けている。日常の保育や行事の取り組みでは、子どもが考えて主体的に行動する姿への見守りの他、援助を大切にしていくことも確認している。新人職員マニュアルでは、子どもの名前を呼び捨てにしないことや、仏教の教えから「和顔愛語」を心がけ、挨拶や丁寧な言葉遣いをするを明記している。

虐待防止や保護者の育児支援に向けた対応について、職員間で確認し合っている

虐待防止マニュアルを職員に配布し、虐待について理解を深めている。また、虐待における保育園の役割、虐待発見のポイント、虐待が疑われた際の対応についても確認している。更に虐待発見時の通報や関係機関との連携についてもフローチャートで示し、迅速な対応が取れるようにしている。その他、虐待予防チェックシートもあり、必要時には活用して虐待防止への対応につなげている。保護者とは日頃からコミュニケーションを密に取り、育児の不安や心配事等を抱えている様子がある際には、寄り添った対応や支援ができるようにしている。

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(○○○)

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|---|------|
| ●あり ○なし | 1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している | ○非該当 |

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(○○)

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|---|------|
| ●あり ○なし | 1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている | ○非該当 |

サブカテゴリー6の講評

各種マニュアル等をシステム内に整備し、確認しながら取り組んでいる

各種マニュアルは、システム内へ格納できるよう取り組んでいる状況であり、今後更にわかりやすく整備していきたいと考えている。業務の手順については、経験年数の高い職員からのアドバイスによる確認の他、会議等の場で職員間で随時検討や確認を行って標準化を図っている。新人職員のマニュアルも備え、保育者としての基本的な注意事項や日常業務、当番、危機管理等を示している。保育士マニュアルは各自で所持し、園の基本方針と目標、保育計画とその推進法、子どもの健康管理等の必要な保育業務を随時確認している。

保育計画や行事は評価と反省を行い、検討や見直しにつなげている

保育計画の立案及び評価・反省の際には、各クラスの担任間で話し合いや振り返りを行い、次の計画内容の見直しにつなげている。各クラスの指導計画は主任が確認し、更に担当クラスや乳児会議・幼児会議での助言・提案により、更なる見直しができるようにしている。職員の新規採用から7年が経過しており、既に各自が業務内容や手順を十分把握していることから、点検表等でのチェックやマニュアルの再点検は行われていない状況となっているが、今後は各種マニュアルの整備を順次行い、より活用しやすくしていきたいと考えている。

会議等での各職員の意見を反映させ、同じ方向性で保育を円滑に進めている

昨年度から、会議の在り方や会議体について見直す取り組みを行っており、園長・主任・副主任での園運営についての定期的な会議の他、乳児会議と幼児会議を実施している。保育の取り組みの中での課題は主任と副主任が抽出し、乳児・幼児会議にて職員間での意見交換等をもとに検討している。乳児・幼児の会議内容については共有を図り、情報の流れをスムーズにしている。各会議録には異年齢保育や行事の取り組み方、個別の保護者対応、子どもへの援助等を討議した内容があり、職員が同じ方向性を持って円滑に保育を進めていることが確認できた。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

| | | サブカテゴリ-4 | |
|---|--|------------------|-------|
| サービスの実施項目 | | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 | 36/36 |
| 1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている | | 評点(〇〇〇〇〇〇) | |
| 評価 | 標準項目 | | |
| ◎あり ○なし | 1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている | | ○非該当 |
| ◎あり ○なし | 2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している | | ○非該当 |
| ◎あり ○なし | 3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している | | ○非該当 |
| ◎あり ○なし | 4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している | | ○非該当 |
| ◎あり ○なし | 5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている | | ○非該当 |
| ◎あり ○なし | 6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している | | ○非該当 |
| 評価項目1の講評 | | | |
| <p>子どもが興味や関心を持って主体的に遊べるよう、環境設定を工夫している</p> <p>各クラス的环境は、子どもの発達や興味、関心に応じた環境を整えている。1歳児室には畳を敷いて遊びと食事の場所を分離する等、家庭的な雰囲気の中で保育者とゆったりと関わって過ごせる環境となっている。他のクラスではテーブルを設定し、棚にはままごとや構成遊び、絵本等を置き、机上や床で自由に遊べる環境にしている。4・5歳児室には季節に応じた図鑑を置き、見つけた生き物や草花を調べられるようにしている。また、廃材を設定したり、ままごとの棚のそばに食べ物のメニュー表を置く等、自由な発想で遊びを展開できるようにしている。</p> <p>異年齢との関わりを通して、互いが育ち合えるよう援助している</p> <p>今年度は職員間で異年齢での関わりを大切にしていくことを確認し合っており、異年齢での遊びや行事の取り組みを一体となって行っている。4・5歳児は部屋を自由に行き来できるようにして、自然な関わりにつなげている。訪問時には4・5歳児がごっこ遊びや構成遊び等で一緒に仲良く遊ぶ姿があった他、片付けの際に5歳児が4歳児をさりげなく手助けする姿も見られていた。また、3歳児と一緒に遊ぶ5歳児に憧れ、怖がっていた鉄棒に挑戦する姿や、5歳児が乳児クラスの手伝いをして優しく関わる姿等、異年齢での関わりからの育ち合いがあった。</p> <p>子ども同士のトラブルでは、互いの思いを尊重して対応している</p> <p>子ども同士のトラブルでは、各年齢の発達の過程で生じるものと保育者が理解し、関わりや環境構成等に配慮している。1・2歳児では関心のある遊具を複数揃えておいたり、安心して遊ぶことができるよう保育者が見守って遊びを提供したり等、落ち着て過ごせるよう配慮している。言葉での伝え合いができるようになってくる時期には、互いの思いを伝え合えるように仲介したり、子ども同士での話し合いを見守っている。5歳児は、夕方の会で一日の振り返りをする時間があるため、ケンカやトラブルがある際には皆で考える場につなげている。</p> | | | |

| 2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている | | 評点(〇〇〇〇) |
|---|---|----------|
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている | ○非該当 |

評価項目2の講評

登降園時は、保護者と子どもの様子を伝え合って確認している

登園時は、家庭での子どもの様子を保護者に聞き、子どもの状況を視診により確認している。早番で保護者と確認したことは、申し送りノートに記入し、クラスの担任に伝えている。朝の連絡会議では、各クラス代表と副主任が参加して、全体の子どもの状況を把握できるようにしている。降園時は、各クラスで日中の子どもの状況を記入した申し送りノートと、1・2歳児はその日の個別の体温や排便、食事、伝達事項を記録した用紙を用いて、遅番への引き継ぎを行い保護者に伝えている。1・2歳児はアプリからも、家庭と園での様子を伝え合っている。

一人ひとりの子どもの状況に応じて、基本的な生活習慣を身につけていくよう援助している

基本的な生活習慣については、一人ひとりの子どもの発達状況やペースに応じ、家庭と連携を取りながら無理なく身につけていけるよう援助している。食事の際は姿勢の保持や食具の持ち方・操作等を丁寧な介助や言葉がけから身につけていけるよう取り組んでおり、スプーンの操作が上達した4歳児頃から箸への移行を行っている。排泄面では個々の排尿間隔に応じてトイレでの排尿に誘う等、子どもの様子に合わせて援助している。また、着替え袋を使っている着替えや衣服の始末を全クラスで統一していることで、進級後も継続的に取り組めるようになっている。

一人ひとりの子どもの生活リズムに配慮して、休息が取れるようにしている

子どもが園での一日を安定して過ごすことができるように、日々の子どもの健康状態や家庭での睡眠時間を把握しており、個々の状態に応じた必要な睡眠が取れるよう配慮している。1・2歳児は食後すぐに入眠したい子が布団に入れるよう予め布団を準備し、早く目覚めたら静かな遊びに誘う等の配慮も行っている。保護者からの午睡に関する意見も踏まえ、休息の必要性や個別に応じた午睡時間の配慮について職員間で検討している。5歳児は就学に向けて生活リズムを整えていけるように、早寝早起きの習慣と共に1月頃から横になったの休息をなくしている。

| 3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している | | 評点(〇〇〇〇〇〇) |
|---|---|------------|
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している | ○非該当 |

評価項目3の講評

子どもが遊びを自発的に考えたり、工夫して展開していけるよう配慮している

保育者が環境設定や安全確認を行う際には、子どもが自発的に遊びを考えたり、友達とイメージを共有して工夫したり試したりして遊びを展開できるように見守っていくことを基本としている。遊びの方向性は子どもたちに任せ、ルールや役割分担にも介入せず、子どもがトラブル等で困った際には調整のヒントだけを与える関わり方を心がけている。訪問時には、衣装や布を使って友達とイメージを共有し、言葉を交わして楽しく遊びを展開する4・5歳児の様子が見られていた。また、片付けの際には、遊具を箱に整えて入れることを子ども同士で伝え合っていた。

絵画やリトミックの指導を通して、様々な表現活動を楽しめるようにしている

外部講師による絵画指導を5歳児が月2回、3・4歳児が月1回行う他、リトミックを3～5歳児が月2回行っている。絵画指導では、時の記念日にちなんで講師が持参した本物の古時計に触れて描く等、子どもたちが見たものを感じたままに描くことを楽しんでいる。リトミックでは、音を聴きながらの身体表現を皆で楽しく体験している。日常の中でも各保育室のピアノを使ってリトミックや歌、手遊びを行う他、5歳児は鍵盤ハーモニカを取り入れて音楽に親しんでいる。4・5歳児は廃材を使って自由な制作活動も行う等、様々な表現を楽しんでいる。

戸外活動では園庭の自然を遊びに取り入れ、季節の移り変わりを体感している

園庭には季節の移り変わりを感じられる桜や銀杏、樺等の木々があり、季節毎の変化に子どもが気づいたり、花びらや落ち葉等の自然物を取り入れた遊びが自発的に展開している。園庭のプランターでは季節の野菜や花を子どもたちで栽培し、水やり等の世話をし花や実がなる様子を楽しみに観察している。夏には蝉や抜け殻を見つけて図鑑で調べたり、隣接する寺の池から園庭まで来た蛙に、子どもたちが驚きや関心を示す等、自然の移り変わりを体感できる園庭での遊びが子どもたちの多くの気づきや発見につながり、好奇心や探求心が育っている。

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|---|-------|
| ●あり ○なし | 1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している | ○ 非該当 |
| ●あり ○なし | 2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している | ○ 非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている | ○ 非該当 |

評価項目4の講評

子どもが伝統行事や仏教行事の由来を知り、関心を持って参加できるよう配慮している

年間を通して季節の行事や伝統行事、仏教行事を実施する中、各行事の由来を知ったり、関心を持って参加できるよう配慮している。七夕や節分、ひな祭り等の際は視覚的な教材で由来を説明したり、行事に関する制作を行い親しめるようにしている。七夕では紙人形劇等で笹飾りや短冊の意味をわかりやすく伝えた後、各クラスで七夕制作を紹介している。仏教行事の際も、それぞれの意味を伝えている。成道会お遊戯会では、お釈迦様の誕生から悟りを開くまでの創作劇を5歳児が毎年演じているため、他の年齢の子どもたちも劇の内容に親しんでいる。

行事は子どもの意見や思いを活かし、楽しく参加できるよう援助している

運動会の体操や遊戯では子どもと相談の上で曲を決めた他、綱引きでは先生と対抗したいという子どもたちの思いを当日のサプライズとして競技に取り入れており、当日は大喜びで挑む姿となっている。運動会は3～5歳児を対象に実施しているが、今年度は異年齢混合チームでの競技や合同での遊戯があったため、3歳児が初めての運動会に不安を抱く姿があったが、5歳児がリードする姿等から安心して競技や遊戯に参加することができている。2月に実施するお店屋さんごっこでは、店の種類や品物の制作等も子ども主導で意欲的に取り組めるよう援助している。

保護者に行事参加への協力や理解が得られるよう、説明や案内を丁寧に行っている

入園時には、伝統行事や仏教行事の取り組み方や内容について保護者に説明する他、年度当初には年間行事予定表を配布している。園便りでも、その月の行事予定を伝えている。保護者参加行事の運動会、成道会お遊戯会、3・4歳児の親子遠足、5歳児の親子遠足、お地蔵祭り等は事前に案内の配布と掲示を行って参加の協力を依頼している。運動会やお遊戯会で取り組む過程は、アプリからの配信で写真を添付して伝える他、一人ひとりの子どもの取り組みの様子や行事を通した成長の姿は、保護者と口頭で伝え合って共有できるようにしている。

| 5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている | | 評点(〇〇) |
|---|--|--------|
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている | ○非該当 |

評価項目5の講評

園の環境を活かし、子どもたちが一日を安定して過ごすことができるよう配慮している
各クラスの室内は定数を見直したことで、人数に対してゆったりと過ごすことができる空間となっている。1歳児は畳の場所と食の場所を区切り、家庭にいるようにくつろげる環境を設定している。2歳児以上は机上や床で遊べる場所を設け、自由に遊びが発展できるようにしている。広々として木々も茂る園庭は、皆がのびのびと遊ぶことができる環境となっており、暑さ指数が高い日には広い講堂も活用している。園庭と室内を活用したバランス良く活動できる静と動の環境の中で、子どもたちが一日を安定して過ごしている。

長い保育時間でも楽しく過ごせるように、好きな遊びが十分にできる環境を設定している
朝7時30分から8時40分までは2歳児室で合同保育を行い、その後はクラス別保育、または異年齢での活動を行っている。夕方の17時30分から18時30分までは、朝の時間帯と同様に2歳児室で合同保育を行っている。合同保育では2歳児室の遊具を使って遊ぶことを基本としているが、隣の3歳児室の遊具を子どもの状況や希望によって設定する等、好きな遊びが十分にできるようにしている。朝・夕の保育担当者は、子どもの様子が確認できる連絡ノートや担任から口頭で引き継いだ内容をもとに、一人ひとりが楽しく過ごせるよう配慮している。

| 6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している | | 評点(〇〇〇〇〇) |
|--|---|-----------|
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている | ○非該当 |

評価項目6の講評

年齢に応じた食事時間を設定し、個々のペースで食事ができるように配慮している
食事の開始時間は各クラスの状況や年齢に応じ職員会議で調整しており、一定の時間で食事が開始できるようにしている。食事の際は席を固定し、同じ場所で落ち着いて食べられるようにしている。盛り付ける量は普段の食べ具合や子どもからの希望を聞き、無理なく食べられるようにする他、個々のペースで楽しく食べられるよう気を配っており、特に4・5歳児は時間に見通しを持って食べることも大切にしている。3歳児からは食事の当番活動として最初は一皿を運ぶことから始めており、5歳児になると食事の準備を任せられ意欲的に配膳を行う姿となっている。

子どもがおいしく楽しく食べられるように、献立は味や彩り、形態等に工夫している
献立は子どもの喫食状況や職員・子どもの意見を取り入れる他、皆でおいしく食べられるように味や彩り、形態等にも配慮し、更には旬の食材を活かして季節を感じられるようにしている。行事食や誕生会の献立では、子どもが特別感を感じて食べられるように盛り付け等も工夫している。その他、和食月間や郷土料理月間、カミカミメニュー、野菜丸かじり体験等、様々な味や食感を体験できる献立も計画している。献立会議は姉妹園の栄養士と行き、各園の給食会議での意見や喫食状況の報告等を共有し、皆がおいしく喜んで食べる献立となるよう立案している。

様々な食に関わる体験を通して、食への興味や関心を高めている
子どもが食に興味や関心を持ち、食べる意欲につながるように様々な食育活動を実施している。4・5歳児は夏野菜の栽培体験として、園庭のプランターで生育の様子を観察している。水やり等の世話をしたり、収穫した野菜を調理してもらうことで意欲的に食べる姿となっている。3～5歳児はクッキングを体験し、3歳児のおにぎり作りではお米研ぎを体験して喜んで食べる姿につながっている。枝豆もぎやそら豆の鞆むき、とうもろこしの皮むき等の食材に触れる体験では、感触や豆の違いに気づく等、興味や関心を高めている。

| | | |
|--|--|---------|
| 7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している | | 評点(〇〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| ●あり ○なし | 1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている | ○非該当 |
| 評価項目7の講評 | | |
| <p>子どもが健康や安全に関心が持てるように、わかりやすい指導や援助を心がけている</p> <p>子どもが健康や安全に関心が持てるように、年齢に応じたわかりやすい指導や援助を行っている。手洗い指導では日常から声をかける他、手洗い場に順番を示した絵図を貼ることで、常に確認できるようにしている。手洗いや歯磨きの大切さを知らせる際には、きれいに洗えたかを確認できるように手洗いチェッカーを活用したり、紙芝居や絵本を用いる等、健康に関心が持てるようにわかりやすく援助している。4・5歳児の朝夕の集会では、安全な遊び方等に気づけるように子ども同士の話し合いの場を設けている。</p> <p>保健計画をもとに職員間で連携し、子どもの健康維持や安全管理に努めている</p> <p>年間保健計画では毎月の子どもの健康や安全に関する目標と留意点を示し、子どもへの指導や環境面での配慮を職員間で連携している。日々の子どもの健康状態は、朝の申し送りの会や連絡ノートを用いて全体で共有の上で把握し、健康面での変化があった場合等には、クラス担任と主任との連携で速やかな対応ができるようにしている。ヒヤリハットは報告書に記録し、会議や朝の申し送りの会で報告と改善に向けた検討を行う等、安全な環境整備に努めている。万が一に備え、職員は消防署による救急救命訓練や、AED操作の講習を受けている。</p> <p>保護者と子どもの健康状態を把握し、健康や安全に過ごせるよう働きかけている</p> <p>入園時の保護者には、疾病時の対応や生活リズムの大切さ等の子どもの健康管理について説明する他、保護者と連携して健康維持に取り組んでいくことを伝えている。登降園の際は子どもの健康状態を保護者と綿密に確認し、1・2歳児のアプリからも家庭と園の健康状態をお互いに把握できるようにしている。感染症発症時はアプリでの配信と掲示で知らせ、保護者に早めの対応を促している。行政で毎月発行している子育てのお便利等でも子どもの健康や安全に関する情報を伝え、保護者の育児の参考となるようにしている。</p> | | |

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇)

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|---|------|
| ●あり ○なし | 1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 保護者同士が交流できる機会を設けている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している | ○非該当 |

評価項目8の講評

保護者の子育てや就労の状況に応じて支援し、安心できる子育てにつなげている

入園前の面接では、保護者の就労や家庭状況を把握して保育時間を確認している。保護者の急な残業等による保育時間の変更等には、柔軟に対応している。来年度は保護者の就労状況により柔軟に応じるため、18時30分以降の延長保育の実施を予定している。保護者の子育ての悩みや不安には随時面談を実施して対応している他、1・2歳児の日々の育児の心配事に対しては、アプリでの応答的なやり取りを通して支援ができるようにしている。送迎時には保護者とのコミュニケーションを大切に、保護者が気兼ねなく相談ができるようにしている。

懇談会や行事では、保護者同士が交流できる機会を設けている

5月には全クラスで懇談会を実施し、子どもの様子や一年間の成長の見通しを伝えると共に、保護者同士で懇談する時間も設けている。保護者の自己紹介の他、家庭での子どもの様子や育児で困ったこと等を伝え合うことで、同じ年齢同士で育ちを共有したり、他の家庭の様子から子育てのヒントとなるよう配慮している。親子参加行事のお地蔵祭りは夕方に開催し、他の家族とも交流しながら楽しめるようにしている。3・4歳児と5歳児の親子遠足や、3～5歳児の対象の運動会でも親子で楽しく参加する姿があり、保護者同士の関わりも深まっている。

保育参観やアプリの配信等から、子どもの育ちを保護者と共有できるようにしている

保護者が園での子どもの姿を観る機会として、保育参観や行事の参加を行っている。3～5歳児の保育参観では、子どもの誕生月の誕生会を参観してもらうことで成長を園と共に喜ぶ他、その日の給食試食も行い、子どもの食べる様子も伝えている。1・2歳児は保育参観後に個人面談を実施し、子どもの姿や育ちを保護者と共有している。アプリからは1・2歳児の個別の園での様子を伝える他、3～5歳児の全体の活動の様子を写真を交えて伝える等、日々の子どもの姿や保育の取り組みを保護者と共有できるようにしている。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

| 評価 | 標準項目 | |
|---------|---|------|
| ●あり ○なし | 1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している | ○非該当 |
| ●あり ○なし | 2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している | ○非該当 |

評価項目9の講評

地域とのつながりや関係が深まるように、情報収集や連携を行っている

子どもたちが園外に出て地域の施設や公園等を活用することは特に行ってないが、主任が地域の会議に参画して情報を得たり、保育士が近隣小学校の行事に参加して小学校の情報を得る等で交流を深めている。近隣の小学校の町探検インタビューを職員が受けたり、1年生がドングリを用いて制作した玩具を持参して、4・5歳児と一緒に遊んだりする体験もあり、小学校とのつながりを深めている。消防署に避難訓練の様子を見てもらう機会があった際には、隣接する寺の庭に消防化学車を入れ、子どもたちが消防職員から説明を聞く体験も行っている。

行事や保育活動では、職員以外の人との交流する機会を設けている

園の行事では、地域の人や卒園児と交流する機会を設けている。お地蔵祭りの際は地域の親子や卒園児に参加を呼びかけており、園の子どもたちと交流する機会になっている。ふれあい動物園を行う際も地域の親子に参加を呼びかけ、共に動物とのふれあいを楽しんでいる。運動会では卒園児も競技に参加し、互いの競技を応援し合って交流ができるようにしている。リトミックや絵画指導では専門講師と継続的に交流し、子どもたちが表現活動を通して関わりを深めている。ボランティアや職場体験の学生も受け入れ、一緒に過ごして関わりを持っている。

| 事業者が特に力を入れている取り組み① | | |
|--------------------|---|--------------------------------------|
| 評価項目 | 6-4-3 | 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している |
| タイトル① | 身近な自然を取り入れて、子どもたち自らで遊びを見つけて展開させている | |
| 内容① | 園庭の桜や銀杏、樺等の樹木や、花壇の花、プランターの夏野菜が育つ様子等から、子どもたちが季節毎の自然の変化を感じている。春には桜の花びらが舞い散るのを追いかけてたり、色づいた銀杏の葉を集めてごっこ遊びをしたりと、園庭の花や落ち葉等の自然物を遊びの中に取り入れ、自由な発想で遊ぶことを大切にしている。夏には見つけた蟬や抜け殻を図鑑で調べて興味を深めたり、隣接する寺の池から来た蛙に触れて好奇心を高めている。広い園庭での毎日の遊びからは、空の色や雲、吹く風の違い等からも季節の移ろいを体感している。 | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み② | | |
|--------------------|---|-------------------------------|
| 評価項目 | 6-4-4 | 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している |
| タイトル② | 行事は子どもの意見を反映させることで、意欲的に取り組めるよう援助している | |
| 内容② | 運動会では、子どもの意見から体操や遊戯の曲を決める等、子どもの意見を反映して行事につなげている。今年度から3～5歳児の異年齢での競技内容にしたことで、初めての参加に不安そうにしている3歳児もいたが、張り切って遊戯をリードする年上の姿を見て、安心して参加する姿が見られている。綱引きでは、「先生とやってみよう」という子どもの声を、当日のサプライズとして実施したことで、皆で連帯感を感じながら挑む姿となっている。お店屋さんごっこでも、子ども主導で店の品物や役割を決めて意欲的に取り組めるようにしている。 | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み③ | | |
|--------------------|---|-------------------------------|
| 評価項目 | 6-4-6 | 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している |
| タイトル③ | 様々な食育活動を実施して、子どもたちが食への興味や関心を高めている | |
| 内容③ | 栄養士と保育者が連携して、様々な食育活動を実践している。食材の枝豆もぎやそら豆の鞆むき、トウモロコシの皮むきをする等、季節の野菜に直接触れる体験を2歳児から行っている。下処理の手伝いをしたことから子どもたちが食材に関心を持ち、食べる意欲にもなっている。3歳児はお米研ぎを体験し、炊けたご飯でおにぎりを作って食べる楽しさを味わっている。4・5歳児は、プランターで野菜や果物を栽培し、生長の様子を楽しみに観察しながら収穫も喜んでいる。育てた野菜は調理してもらい、苦手な野菜も食べるきっかけとなっている。 | |

| No. | 特に良いと思う点 | |
|-----|--------------|--|
| 1 | タイトル | 仏教保育の特長的な保育理念と計画があり、子どもが様々な実体験に基づいた成長を遂げる保育活動を継承している |
| | 内容 | 仏教保育の特長が活かされ、毎月の保育徳目に沿った計画的な保育が展開されている。年長児の毎月のお参り、花まつりやお地蔵まつり、成道会等の仏教行事、七夕、お餅つき等の伝統行事等が毎月開催され、子どもたちは様々な体験を重ねている。子どもたちはきれいな音程で季節の童謡を歌い、自然に集中力を身に付けている。園は体験を重視することで、人間形成の基礎となる乳幼児期を豊かに過ごさせたいとしている。明るく・正しく・和(なか)よくの理念に基づいたお寺の保育園が経営層と職員の連携によって継承され、保護者と地域に愛されている。 |
| 2 | タイトル | 仏教保育の指導と組織管理を園長が、日常的な保育活動は主任や中堅職員が担う柔軟な運営が行われている |
| | 内容 | 保育活動については主任・副主任を中心に、現場の意見を重視した柔軟な対応を行っている。乳児・幼児会議等の複層的な会議には主任や副主任が関わり、まず自分たちで解決策を検討し、園長に協議して方向性を定めるボトムアップの仕組みが機能している。離職者が少ない中で、時間をかけて主任や副主任及び中堅職員の育成が行われ、会議体の再構築を行うことでリーダー層がマネジメント力を備え、各自の職責を理解している。園長は仏教保育の指導者として組織をまとめるという明確な職責を持ち、現場職員が実践の中心となる組織となっている。 |
| 3 | タイトル | 離職の少ない安定した組織が維持されており、一人ひとりの意見や要望を大事にして働きやすい職場環境を整備している |
| | 内容 | 職員の平均勤続年数は約10年と、離職の少ない安定した組織で保育活動が続けられている。30代・40代の中堅層が厚いが、育児や介護等とのワークライフバランスにも配慮され、長く働き続けられる組織となっている。人材確保が難しい中、園児定員縮小等により職員配置は維持されている。全職員に研修の機会があること、実質完全週休二日制で福利厚生も充実している他、何か課題や要望があれば園長が職員一人ひとりの意見を聴く機会を設け、要望は速やかに解決するという姿勢を持ち、働きやすい職場環境を整備している。 |
| No. | さらなる改善が望まれる点 | |
| 1 | タイトル | リスクマネジメントについては安全衛生や事故防止に加え、不適切保育の防止も視野に入れ、真摯な対策が求められている |
| | 内容 | リスクマネジメントについて保育中の事故やケガ、感染症、誤飲誤食等への対応を上位リスクに掲げており、安全計画の実施等で対策を講じている。また、BCPや個人情報保護規程等は、法改正に合わせた改訂が必要な時期となっている。職員による不適切保育の防止と意識啓発については区から資料提供を受けており、速やかな対応が求められている。保育士のみならず多くの職員が家庭的に関わる園として、あらゆる不適切な関わりを排する真摯な取り組みが必要とされている。 |
| 2 | タイトル | 歴史ある園として、次代に向けた中長期的課題を明確にした中長期計画の見直しと再構築が必要な時期を迎えている |
| | 内容 | 園は70年以上にわたりお寺の保育園として地域に親しまれ、保護者の支えとなり続けてきた。家族構成も変わり住民の移り変わりも進んでいる現在、経営方針の見直しの時期にある。住宅開発と保育需要、一時保育等へのニーズの高まり、地理的リスクの見直し等、検討すべき中長期的課題が明らかになっている。法人や系列園との強い連携を活かし、中長期計画の見直しと再構築が必要な時期となっている。 |
| 3 | タイトル | 子どもの遊びの目的や一人ひとりの成長を深く理解するため、保育活動を観察・検証する職員の学びが求められる |
| | 内容 | 園では異年齢保育を取り入れ、集団の遊びと自由遊び、伝統と新しさを組み合わせた保育を行っている。子どもたちは園庭や保育室で好きな遊びを選び、のびのびと育っている。一方で、子どもたちの遊びを更に発展させ、深めていく計画性や保育の目的・意図が不明確な面もある。一つひとつの活動が何を目的として深化していくのか、子どもたちが遊びの中から何を獲得し、どう変わっていくのかを職員がよく観察し、遊びを検証する学びが求められる等、保育の質の更なる向上が期待される。 |